

生活創造空間

にし

NISHI

～アンラシネを目指します～

第3号 2010年7月10日発行



西区地域自立支援協議会について語る！

ガッツ・ビーと西 副所長 阿部 浩之

生活創造空間にしが横浜市西区浜松町に立ちあがって1年が過ぎました。実は、この生活創造空間にしが建ち上がる1年半も前から「西区地域自立支援協議会」は動き出していたのです…。

コア会議の誕生

平成19年12月に近隣地域にある施設、西区地域活動ホームや無限夢工房への「法人型地域活動ホームとは何か？」という説明会を実施しました。この説明会をきっかけとして自立支援協議会が立ち上がるよりも先に「西区を盛り上げよう！！」という動きがスタートしました。これがのちにコア会議として西区地域自立支援協議会のまさに「コア」の部分の重要な会議へと発展していくこととなります。現在では、コア会議には西区内にある8団体（無限夢工房、生活支援センター西、パソコン工房DELTA、西区地域活動ホーム、西区社会福祉協議会、西区役所、横浜中部就労支援センター、ガッツ・ビーと西）が月1回集まり、西区の課題について「本音で言い合える場、何でも相談し合える場」を目指しております。

「西区らしさ」とは??

生活創造空間にしのある横浜市西区は横浜市18区の中でも、もっとも小さな区（2番目の南区のさらに半分の大きさ！）で、人口も93,476人（平成22年6月1日現在）ともっとも少ない数字であります。また、障がい者支援施設も他区に比べると決して多いとは言えない地域です。それは裏を返せば「小回りのきいた、手の行き届いた温かい支援ができる」「顔の見える関係が作りやすい」ということにならないでしょうか？少ない施設（点）それぞれが一致団結（線）し、その団結を増やしていく（面）。そんな点から線、さらに面へと支援のネットワークを広げていきやすい、それが「西区らしさ」ではないでしょうか？

支援が必要な方にとっても点よりも面で支えられる方がどんなに安心考えられることか…。

今年度より西区地域自立支援協議会のホームページも立ち上げ、「顔の見える関係作り」にも、より力を入れております（どんな仕掛けかはホームページを見てのお楽しみ！！）。

これからが本番！

現在、3部会（余暇支援部会、療育・教育・福祉連携会議、研修部会）、3委員会（公園清掃委員会、販売委員会、ホームページ委員会）、個別支援会議を西区地域自立支援協議会の柱として行っております。発足して1年が経ち、お互いなんとなく顔が見える関係になってきたところですが、これからが本番です。積み上げた一つ一つの部会・委員会・個別支援会議を丁寧に続けていく、これがとても大切ですし、難しいところでもあります。また、個別支援会議から見えてくる地域課題を一つ一つ明らかにし、解決の方向へ導いていくこともこの西区地域自立支援協議会に求められる機能であります。

西区地域自立支援協議会ホームページ URL : <http://249s.p1.bindsite.jp/>

2010年10月2日

第1回 西区第3地区福祉フェスタが開催されます！

生活創造空間にし 館長 渡辺 幹夫

2010年10月2日(土) 10:00~15:00 生活創造空間にしで上記事業が開催されます。現在月例で実行委員会が開かれ、8団体選出の委員が叡智をしばってフェスタ作りをしています。コンサート。出店。落語会等々。また福祉相談会も実施するなど硬軟あわせて楽しい一日になるよう頑張っています。本当に多くの方々に来ていただければと願っています。どうしてこんな計画が動き出したのか。それは昨年 西区第3地区の地域福祉を考える会が開催されました。その折、第3地区には福祉団体が多く集まっており、情報交換等含めて今後、交流をしていこうということになり、新年明けて代表者会議第1回が開催されました、その中で「ゆっくり地域の中で向き合い、協力し、誰でもが暮らしやすい街になるように相互で協力しあおう」そんなコンセプトが出来上がり、ここで「福祉フェスタ」をやってみようという提案があり、動き始めました。この地で働くものと地域で暮らす方々が一堂に集まり、障がいある方々。高齢者等。への課題解決にむけて一歩で踏み出し、また交わるフェスタを創り出せたら有難いと思っています。

あらためて 障がいを学ぶ 第1回 視覚障がいについて

生活創造空間にし 副館長 熊井 さとみ

生活創造空間にしでは、地域の皆さまへ、障がい児・者についての情報提供を行っています。第1回は、視覚障がい者の方についての研修を行いました。講師は藤棚商店街近くで、鍼・マッサージ業を開業されている柴田さん。

視覚障害の方の誘導方法についても実技を行いながら、どのようなところが誘導のポイントか、アドバイスを頂きました。例えば「あっち」「こっち」では分からないので、「右」「左」と具体的に示すこと、正面からいきなり話しかけるのではなく、軽く肩を叩いてから声をかけること・・・など。とても些細なことのようにですが、視覚障がいの方にとっては、耳から入る情報が頼りです。私たちはそのことを踏まえて目の見えない不自由さに心配りをする必要があります。柴田さんは『視覚障がいの方への働きかけは「気づき」と「勇気」、お断りされる方もいらっしゃると思いますが、どうぞ勇気を持って一声かけてください』とメッセージを下さいました。日常の場面で視覚障害の方へのお声かけを躊躇している私たちに一声かける勇気を与えてくれました。

生活創造空間にしでは、今後も「学びあう場」を創っていきたいと考えています。次回は、7月15日(木) 18時～ ご家族や当事者の方から 精神障がいについて語って頂きます。

※事前のお申込みはいりません

ガッツ・ビーと西 梅の季節

【一周年を迎えました♪】

昨年6月に開所してから、ガッツ・ビーと西も一周年を迎えました。ご利用者の方々も多くなり、ますますにぎやかになっています。それぞれの活動部屋で様々な活動を行っていますが、今回は梅を使った活動についてお伝えしていきたいと思います！

【ガッツの梅プログラム】

昨年開所してから初めて行なったプログラムが、梅を使った「梅ジュース・梅干し作り」でした。初めての試みでしたが、ご利用者の方々にもご好評をいただき、今年も梅プログラムを行ないました。

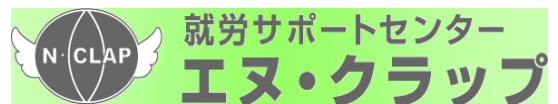
群馬県の農家から直接買い付けた青梅は、梅ジュース用と梅干し用の2種類があります。まずは、どちらの梅も丁寧に洗い、へたの部分を楊枝で取り除き、その後、ジュース用は氷砂糖に漬け、梅干し用は塩をまぶします。

梅を丁寧に拭いて袋やビンに詰めていると、「去年よりも大きな梅だね」とか「甘酸っぱくていい香り」等、ご利用者同士の会話も多く聞かれ、作る楽しさだけでなく、みんなで一緒に作り上げる楽しさも味わっていただいています。梅干し用の梅は、梅雨が明けた頃に天日干しをしますが、漬ける前の梅と干す時の梅では、実の状態が違うので、皆さん驚きながらも、だんだん梅干しになっていく様子を見て、出来上がりを楽しみにされています。

昨年は初めて作ったので、少ししょっぱい梅干しに出来上がってしまいました。今年こそは…！おいしい梅干しが出来るように、そしていつか、地域の方々にも食べていただけるように、少しずつ頑張っていきたいと思います☆



ついに目覚めました！あんまマッサージ指圧



7月6日(火)

OPEN!

エヌ・クラブもガッツ・ビーと西と共に1周年を迎えました！1年間エヌ・クラブの活動にご理解、ご協力いただいた皆様にあらためて感謝申し上げます。

さて、命名がよかったのか！？エヌ・クラブの作業としてずっと眠っていたスリープが開業致しました！最近では街の至る所にマッサージの看板を見かけますが、視覚障害をお持ちの方の職場としては少なくなっているのが現状です。そこでエヌ・クラブとして何か出来ないかと考えたのが【スリープ】でした。視覚障害をお持ちであんまマッサージ指圧の国家資格をお持ちのご利用者が施術致します。現状、治療を行うまでには至っていませんが皆様に快適な時間として、リラックスして頂けるよう頑張っておりますので、ご愛顧のほど、よろしくお願い致します m(_)_m

★営業日：火～土 ★営業時間：9：30～15：30(第2・第4水曜日は12：30まで) ★定休日：日曜、月曜、祝日

★予約制：お問い合わせ先 080-3919-6339 (9：30～15：30 受付担当：鈴木政浩)

★初診の方は火・木にご予約をお願い致します ★料金 20分コース：1,000円 40分コース：1,500円



♪夜コン「邂逅.. それはめぐりあい...」♪報告♪



2010年5月14日(金)18時...

予定通り初めての夜コンが行われました。いつもとは違う雰囲気の中、POPSあり、JAZZあり彼女たちのオリジナル曲も!! 目を閉じ暖かい音に身をゆだねた2時間... Dai daiさんをはじめ会場にいた人たちはそれぞれの邂逅がありました。素晴らしいひと時、暖かい音楽をありがとう。1回目は大成功でした。第2回は9月24日(金)の予定です。どのような邂逅になるのでしょうか…。

6月余暇「新江ノ島水族館へ行こう♪」についての報告

当日のお天気は快晴(≧▽≦)/絶好の行楽日和でした!!

水族館では、一ミリくらいのクラゲに夢中になる子ども...、アシカにイチコロになる子ども...、足を踏まれながらもペンギンのショーを楽しむ子ども...。いろいろなお魚を見て回りました。

その中でも、いちばんはなんといっても大きな大きな水槽だったようです。とっても楽しかったね♪また行こうね♪



たくさんのご応募ありがとうございました。また次回会えること楽しみにしているよ♪♪

腹痛日記～黒々なるままに～

☆医療と福祉の最前線において☆

私事だが、先日まで体調を崩し、ある総合病院に10日間ほど入院していた。

入院とはとても退屈なもので普段であれば気に留めないようなことでも、自然と耳に入ってきて頭に残る。その分を差し引いたとしても、とても気になったことがある。ある看護師の患者に対する対応についてである。高齢の入院患者が鼻から入っているチューブを自分で抜いてしまう出来事があった。また、別の時には同じ患者が患者IDの刻印されているアームバンドをどこかで引きちぎって捨ててしまうということがあった。おそらくその患者は消化器の疾患以外にも認知の部分で何らかの疾患を持たれていることは会話の内容から容易に想像できた。ところが、その看護師の対応は「チューブ抜いたら先生に手術してもらおうよ。」「何度アームバンド切らないでって言ったらわかるの。」と口頭でヒステリックに叱りつけていた。夜勤帯で忙しさと疲労があったことも考えられるが...。手術をするという脅しがご本人の理解にどうつながるのか、アームバンドは入院患者の規則なのはわかるが、そこまでして手首に常時つけていなくてはいけないのか。その看護師は楽しく仕事に向かっているのだろうか。畑は違えど、人と接する仕事をしている身として、そうありたくないと思いつつ、身のつまされる思いがした。(腹イタム)

生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)